

STEP3 ▶ 海釣り

痛快! 釣りの醍醐味を手軽に体験するための極意



【フィールド】 防波堤・小磯

- 入門度.....
- 難易度.....
- ファミリー度.....
- ゲーム性.....
- おいしさ度.....

ノベ竿で楽しむ 海のウキ釣り

ノベ竿のウキ釣りこそ、釣りの王道なのだ！

操作性はケタ違いにイージーだから、初心者でも余裕で楽しめる

先日、息子と一緒に釣りに出掛けたときのことである。子供に釣らせるために、ノベ竿で楽しめる場所を探して車を走らせると、やがて小さな堤防を発見。ほどよく濁りが入っていて、すぐ釣れそうな雰囲気だ。

その日準備したのは、普段は淡水のオイカワ釣りに使っているノベ竿&仕掛け。この細仕掛けならどんなにスレたメジナでも一発で食ってくるはずだ。さっそく、水コマセを少しだけポイントに撒いて、竿を息子に持たせてみた。

すると、ほどなくメジナ特有のジワジワとしたアタリが……。ウキが海面から30センチほど沈んだところで、「竿を立てろ！」と合図。ガッチリとハリ掛かりし、強烈なファイトに歓喜の声を上げる息子。手を貸さずにいると、ノベ竿の穂先がズンズンと海面下に突き刺さりそうになる。かなりデカそうだ。しかし、タックルバランスが取れていれば、竿を立てているだけでも魚は自然に寄ってくるもの。激闘の末(?)、息子が寄せてきたのは30cm近い良型。タモですくい上げると、なんと尾長メジナ(南方系のメジナで強烈な引きが人気)だった。

た。どうりでファイトが強烈なワケだ。その後も、同サイズの入れ食い状態が続いたが、30分後、「父ちゃん、もう、釣りすぎたから終わりにしよう」と息子。「じゃ、最後に一匹だけ釣らせてよ」と私。この海の雰囲気なら、さらに大型のメジナも寄っているはずだ。

それまで、1メートルほどのタナ(水深)で釣っていたのを、さらに1メートルほど深くしてみる。その第一投目。払い出しのいい潮にウキが乗った。リール竿ならそのまま流せるが、ノベ竿だと5メートル以内が勝負だ。すると、ウキがシブシブと沈んでいく。10センチ、20センチ……。ウキが見えなくなったところで竿を立てる。すると、一気に竿をのされた！ 竿尻を限界まで下げて対応。なかなか、浮いてこない。それを見ていた息子が「怖いよ」(何故か、大きい魚は怖いそう)。こちらは、ミチイトのキunksンしたイト鳴りを聞きながら、猛烈な引きを楽しむ。ようやく浮いてきたのは、35センチは超えていそうなメジナだ。たぶん、これも尾長だろう。こんなのをノベ竿で釣るとマ

ジで楽しめる。ところが、最後の寄せに入った瞬間、ハリスがプツリ。強度的には0.6号でも余裕で寄せられたはずだが、鋭いメジナの歯でナイロンが切られたようだ。やっばり、ハリスはフロロにしておくべきだったか……。

*

リールを使用せずに、一本の竿と一本のラインだけでダイレクトに魚と対峙する。この、静のなかに隠されたダイ

ナミズムこそが、ノベ竿釣りの真骨頂であり、最大の魅力なのである。本書も、この釣りの楽しさを紹介したいがために書き起こしたといっても過言じゃないほどだ。

ノベ竿では、ウキ釣り、がオススメだ！

ノベ竿を使った釣りにはいろいろな方法があるが、なかでも一番オススメしたいのが、シンプルな仕掛けを使ったウキ釣り。これは、すべての釣りの基本ともいえる釣り方で、魚がエサをくわえたときのアタリが目で確認できることによつて、「釣った」感が一層楽しめるのだ。

ターゲットはそれこそ無限だが、ここではビギナーが手軽に楽しめる防波堤や小磯での五目釣りを紹介する。アジや小メジナ、ウミタナゴ、メバル、サヨリなどが主な相手だが、そこは海の魚。体長20cmぐらいのアジやメジナは、ビックリするぐらいの強烈な引き込みを体験させてくれる。軽快で自由自在に扱えるノベ竿の釣りは、隣の本格釣り師をブツ切る実力を持つ。ぜひ一度、この釣りを味わってみてほしい！



軽量で抜群の操作性を誇る
「ノベ竿」なら、ビギナーでも
釣りの醍醐味を楽しめるのだ！

ターゲット ノベ竿で狙える魚たち

●メジナ

▶〈釣期＝秋～春〉

ノベ竿のウキ釣りでは、最強のターゲット。主に、堤防まわりや小磯などで釣ることができる。15 cm前後の小メジナを釣っても楽しめるが、20 cm以上になると相当エキサイティングなファイトになる。ほぼ一年中狙うことが可能で、とくに水温の低下する秋以降は釣りやすくなる。刺し身や塩焼きなどで美味



●アジ ▶〈釣期＝一年中〉

防波堤の人気者。サビキ仕掛けで釣れないときでも、繊細なウキ仕掛けなら釣れることも多い。日中よりも、朝と夕方のまづめどきが釣りやすい



●メバル ▶〈釣期＝一年中〉

ノベ竿で釣ると、強烈な引きを楽しめる好ターゲット。日中は岩礁や海藻まわりなどに潜んでいるが、コマセを撒くと油断して浮いてくる



●ウミタナゴ ▶〈釣期＝一年中〉

堤防や小磯などで、のんびり気分で楽しめるターゲット。平均体長は15 cm前後だが、小気味のいい引きが楽しめる。大型は刺し身で美味



●サヨリ ▶〈釣期＝一年中〉

俗に“エンピツサヨリ”と呼ばれる小型サヨリは、堤防近くまで群れて回遊してくるので、ノベ竿の格好の相手になる。100匹超えも珍しくない

初心者が使いやすい、ノベ竿の選び方

長さ4.5mのノベ竿がオススメ。コマセバケツや玉網なども用意したい

この釣りの必須アイテムである「ノベ竿」。これは、リールをセットしないタイプの竿を総称しており、河川や湖沼での釣りではポピュラーに使われている。そして、その最大の特徴はリールを装着しないために（当然、ラインを通すガイドも付いていない）、とにかく軽快で扱いやすいことだ。持ち重りもしないし、もちろん、ガイドへのライン絡みなども皆無。タックルに扱い慣れていないビギナーや力のない子供や女性には断然、使いやすいのだ。

慣れてくれば、軟調の清流竿もおもしろい

この竿を海で使用するわけだが、海釣り専用として売られているノベ竿というのはメバル用ぐらいなので、実際には清流竿が清流竿のなかから選ぶことになる。初心者におすすめするのは、張りがあって竿ブレの少ない硬調の清流竿。長さは4.5m程度が軽量で扱いやすいだろう。

一方、私が防波堤や小磯などで主に使っているのは、長さ4.5mの清流竿。河川のオイカワやハヤといった小魚を釣

るための竿なのでかなり軟らかい調子だが、逆に粘り強さはピカイチ。これで、メジナやアジを釣ると最高に楽しめるのだ。さらに、私はこの竿でクロダイやヒラスズキ、ソウダガツオを釣ったこともある。ソウダを連発で釣ったときには、さすがに穂先のリリアンを引き千切られてしまったが……。とにかく、ノベ竿のポテンシャルは素晴らしい。ホント、どこかのメーカーで海釣り専用のノベ竿を作ってくれないだろうか？

ちなみに、息子たちが使っている長さ4.2mの清流竿は、実売価格で1980円（！）のバーゲン品だったが、軽量（約70g＝卵一個の重さだ）かつ、粘りも強度もあって、実用にはなんら問題ないことが判明した。これなら、サイフ事情の厳しい方でも、気楽に購入できると思う。ほかに必要なタックルとしては、コマセバケツとヒシヤク、水汲みバケツ、仕掛けの収納ケース、魚を取り込むための玉網などがある。これらは、ほかの釣りにも流用できるので、最初からそろえておくといいだろう。

タックル タックルはこれだけでOKだ!



●長さ 4.5 mの清流竿か渓流竿をチョイス!

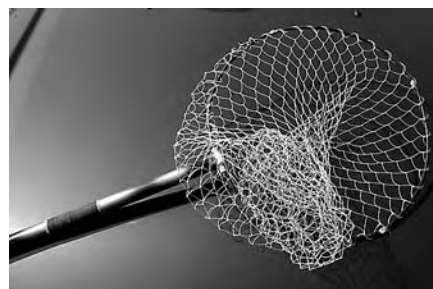
ノベ竿は全長 4.5 mのものが軽量で扱いやすい。ただし、最近のロッドは飛躍的に軽量化されているので、釣り場の状況によっては 5 m前後の竿を使い分けても楽しい。タイプとしては清流竿(上 2 本)と渓流竿(下)があり、清流竿はより軽量で扱いやすく、渓流竿は魚をスピーディに浮かせることができる。どちらも、実売価格で 3,000 ~ 5,000 円なら性能も問題ないだろう

シンプルな道具立てで 楽しめるのが魅力。 最初の釣りはやっぱりコレ?



●小型仕掛けケースが便利

ウキ釣り仕掛けに使うパーツは小さなものが多いので、それをまとめて収納できるケースがあると便利だ。私の愛用は、明邦化学工業の「あきおくん」



●玉網があればいつか必ず役に立つ!

ノベ竿の釣りでは細ラインを使用するので、大物がハリ掛かりした場合には、最後の取り込みでこれがあると便利。玉網の枠は直径 45 cm、柄の長さは 4.5 mもあればいいだろう

●コマセバケツ&ヒシャク

この釣り方で使うコマセは、海水でシャバシャバに薄めるので、コマセバケツは縦型のプラスチック製が便利。コマセを撒くためのヒシャクは、柄の長さが 50 cm程度が使いやすい



ウキ釣り仕掛けを作ってみよう!

シンプルな固定ウキ仕様だから、小学生でも簡単に作れるのだ

ノベ竿でのウキ釣りは、使用する仕掛けがとにかくシンプルなので、小学生でも簡単に作ることができる。もちろん、操作性にも優れていて、磯釣り師が使っている遊動式のウキ釣り仕掛けと比較すると、ケタ違いにイージーに扱うことができるのだ。さっそく、その作り方を見てみることにしよう。

竿と仕掛けとの「バランス」が重要だ

まず、ウキ釣りに使うミチイトは、柔軟性に優れるナイロンラインの1号がオススメだ。これは、19ページで紹介したボビン巻きも超格安で買える。ただし、ここでは色つきのラインではなく、無色透明のものを使用しよう。

仕掛けの核になるのが「ウキ」。種類はいろいろあるが、ビギナーが使いやすいのは玉ウキだ。一見、素人っぽいウキなのだが、意外と感度もよくて、波にも揉まれにくいので海ではとても使いやすい。しかも、棒ウキと違って浮力調整も簡単なのだ。

そして、肝心なのが「ハリ」選び。私のオススメはズバリ、ヘラブナ釣り用の「スレバリ」だ。これは、ハリにカエシ(ハリ軸の内部)のないタイプで、魚のハリ掛かりが抜群にいいのが特徴だ。また、服などにハリが引つ掛かっても簡単に外せるから、トラブルの多い初心者にもオススメ。ハリの結びにはちよつとしたコツが必要なので、最初のうちはハリス付きのものを使うといいだろう。ハリのサイズは6号、ハリスは0.6~0.8号を選ぼう。

これらは、海釣りでの常識では繊細過ぎるかも知れないが、ノベ竿のポテンシャルとのバランスを考慮すると、これ以上に太いラインや大きなハリは不要だと思つて差し支えない。ただし、とくに細いハリスは、目に見えない小さな傷が原因で切れることが少なくない。魚を何匹か釣り上げた後、根などに擦れたと感じたら、マメに交換していくことが大切だ。したがって、いずればハリの結び方をマスターして、ハリをムダにすることなく釣りを楽しめるようになるう!

【ミチイト】

柔軟性あって、潮へのなじみもいいナイロンの1号がオススメ。ただし、根ズレへの強度を優先させるなら、ハリス用のフロロラインを使ってもよい。ミチイトの全長は、竿の長さに合わせるのが基本

【竿】

溪流竿か清流竿を使用する。長さは4.5～5.5mが目安。ただし、短いほうが操作性には断然優れる。竿先には、ミチイトを結ぶためのリリアンが装着されているので、その先端に結びコブを作っておこう

【ウキゴム】

ウキの軸の太さに合ったものを5～6mmの長さに短くカットして使う。釣具店では川釣りコーナーに置いていることが多い

【サルカン】

8号程度の小さなものを使いたい

【ハリ】

ヘラ用のスレバリ6号を推奨。入手できない場合は、どこでも売っている袖バリの6号を使うといいだろう

【ウキ】

玉ウキがオススメ。サイズは、直径1.5cmぐらいのものが使いやすい

【オモリ】

ガン玉でもいいが、自由にカットできて浮力調整がやりやすいのは板オモリだ。何種類かの厚さがあるが、海釣りでは0.25mmが使いやすい。これは長さ約2cmでガン玉の2B相当になることも覚えておこう！

【ハリス】

ハリス付きのハリの場合、ナイロンの0.6～0.8号が結ばれているものを選ぼう。長さは20～25cmにカットして使用する。自分でハリスを結ぶ場合は、フロロカーボンの0.6～0.8号がオススメ。根ズレに強く、魚の歯で切られることも少なくなるのだ



●ウキは自分が見やすいものを選ぼう！

ウキにはさまざまな種類があって、初心者には的確な選択が難しいかも知れない。そこで、とりあえずオススメなのが一番左の“玉ウキ”だ。流体力学上では体積の割には抵抗が少なく、それでいて海の波に揉まれにくい。浮力調整が簡単で、アタリも見やすく、さらに価格も格段に安いのだ。右に並ぶ棒状のウキは、より高感度を求めるアジ釣りなどで威力を発揮する

意外と使いやすいのは、
シンプルな“玉ウキ”。
ハリはハリス付きを！

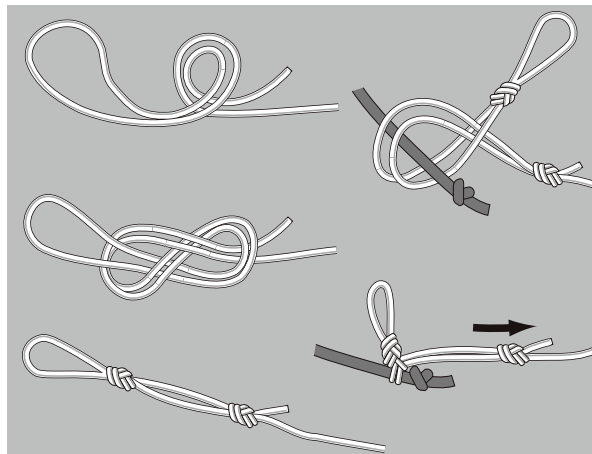
●ハリはスレバリが使いやすい

ヘラブナ釣りに使うアゴなしの「スレバリ」を使うと、魚を外すときの手返しが圧倒的に早くなる。サイズは6号がオススメ。ハリだけでも買えるが、ハリス付きを使うと手間いらずだ



●仕掛け作りに使うその他のパーツ

①ライン／ミチイトはナイロン1号を使用。ハリスを自分で結ぶときは0.6～0.8号のフロロカーボンがオススメ。②ウキゴム／ミチイトにウキをセットするためのゴム管。③サルカン／ミチイトとハリスを連結するパーツ。④オモリ／ガン玉と呼ばれるタイプのB～3Bサイズ、または、板オモリを使用する

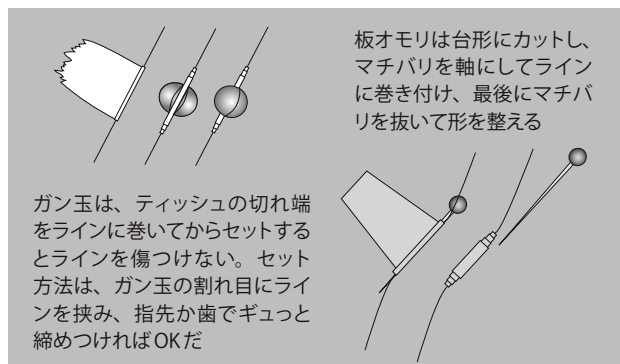


●「チチワ結び」は、超便利なのだ！

チチワ結びはワンタッチで仕掛けの脱着ができるので、ぜひ覚えておこう。①ミチイトの先端を10 cmほど折り返して、小さな輪を作る。②輪を2回ねじって、その中に折り返し部分をくぐらせて結び目を作る。③同様に、もうひとつ小さな輪を作る。全体の長さは5 cmほど。④大きい輪を折り返して、その中に竿先のリリアンを通す。⑤本線を引っ張ればセット完了だ。仕掛けを外すときは、小さな輪を引っ張ればOK

●オモリのセット方法

オモリをラインに装着するとき、雑にやるとラインを痛めやすい。また、とくに板オモリの場合はゴテゴテと雑に巻くと、水中でクルクルと回ってラインヨレの要因になるし、魚がエサを食い込んだときの抵抗も大きくなって違和感を与えやすい。最後に表面を爪でこいで滑らかにすると、ハリス絡みが激減するので覚えておこう！



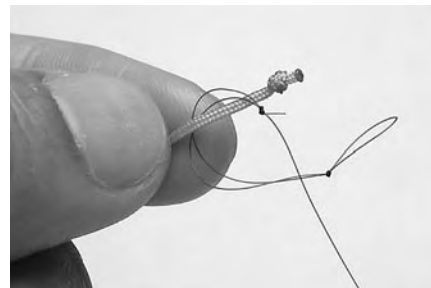
ガン玉は、ティッシュの切れ端をラインに巻いてからセットするとラインを傷つけない。セット方法は、ガン玉の割れ目にラインを挟み、指先か歯でギュッと締めつけばOKだ

板オモリは台形にカットし、マチバリを軸にしてラインに巻き付け、最後にマチバリを抜いて形を整える



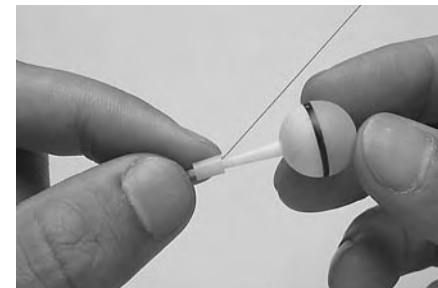
●あると便利なラインカッター

ウキ釣り仕掛けに限ったことではないが、仕掛け作りではラインをカットするためのハサミが必需品になる。①釣り場で使うなら、このようなクリッパータイプが軽量で便利。これはPEラインもカットできるタイプ。②自宅で仕掛けを作るときには、釣り専用の小型バサミが使いやすい。③これも釣り専用で、細かい作業に向く。④釣り場ではカッターも役立つことがあるので、小型タイプを用意しておこう



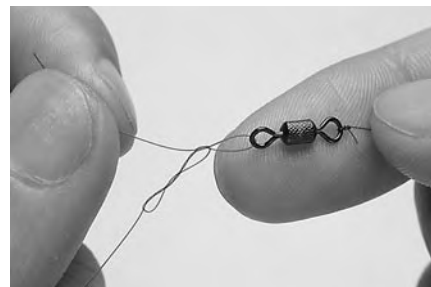
①竿先にミチイトをセットする

ノベ竿の先端には「リリアン」と呼ばれるヒモが付いているので、そこにチチワ結び（左ページのイラスト参照）でミチイトを装着する



②ミチイトにウキをセットする

竿を伸ばして、竿の全長でラインをカットする。続いて、長さ5 mmほどにカットしたウキゴムをラインに通し、そこにウキの脚を差し込む



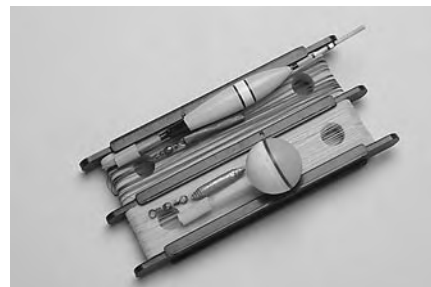
③サルカンを結んでハリをセットする

ミチイトの端にサルカンを結ぶ。結び方は47ページのクリンチノットでOK。同様の結び方で、サルカンの反対側にハリス付きのハリも結ぶ



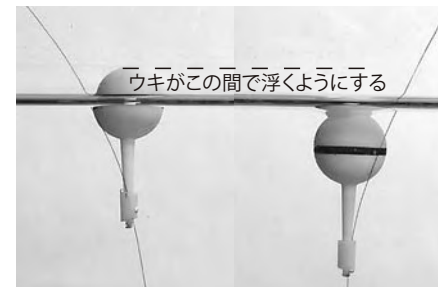
④オモリをセットする

左のイラストの要領でオモリをセット。板オモリの場合は最初に長さ4 cmほど、ガン玉の場合はBサイズを装着して、最後に浮力を調整しよう



⑤仕掛け巻きに収納する

ウキ仕掛けは、あらかじめ家で2～3セット作っておきたい。収納は、写真のような仕掛け巻きを利用するといいだらう



⑥ウキの浮力調整をする

実際に仕掛けを海に投入したときに、ウキが左写真から右写真の間で浮くように、オモリを増減して調整すれば仕掛けの完成だ

ウキ釣りの「エサ」を選ぶう！

アミエビとイソメを用意すればOK。アミコマセも忘れずに！

48ページでも紹介したように、海釣りでも万能に使えるエサはオキアミとイソメ類。もちろん、ノベ竿のウキ釣りでもそれは同様で、この2種類のエサを用意していけば、エサで困ることはないだろう。

オキアミは匂いが強いうえに軟らかく、魚の食いは最高にいいエサだ。ただし、ノベ竿の仕掛けに使用する小バりに付けると少々バランスが悪い。そこで、オススメなのがオキアミの小型版ともいえる「アミエビ」。このエサはオキアミと種類は違うが、基本的には同じように使えると考えていい。むしろ、サイズが小さい分、アジやウミタナゴ、サヨリなどにはオキアミよりも食いが良好なのだ。ハリに付けるときは、尻側からハリを入れてハリ全体を隠すようにして真っ直ぐにつけるのが基本だ。

イソメ類では、クネクネとした動きでより魚たちにアピールしやすい「アオイソメ」がウキ釣りではオススメ。エサのハリ掛け方法は、チョン掛けがベスト。ていねいに縫い刺しにするのも悪くはないのだが、できるだけエサの

活きを損なわないほうがいいだろう。

最終兵器？ アミコマセ使いの裏ワザとは……

ウキ釣りで、エサとは別に用意しておきたいのだが「アミコマセ」。これは、サビキ釣りの項でも紹介している冷凍コマセとまったく同じものだ。使い方のコツは、とにかく海水でシャバシャバになるまで薄めること。アミブロックを解凍してドロドロのまま投げている人も多いが、これだとコマセの消費量も増えるし、魚たちもコマセの捕食に夢中になって付けエサに反応しなくなることもある。とにかく、「薄過ぎるかな？」と思うぐらいの水コマセを使うのが、ノベ竿でのウキ釣りではセオリーなのだ。

なお、この解凍した極小アミエビは、それ自体が付けエサにもなる。身が軟らかくてハリ掛けしにくいのが難点だが、それゆえに魚の食いは抜群にいい。大粒のアミエビで全然釣れないときでも、これを試してみたときに爆釣が始まることも少なくないのだ。

エサ

まずは“アミエビ”を始めよう！

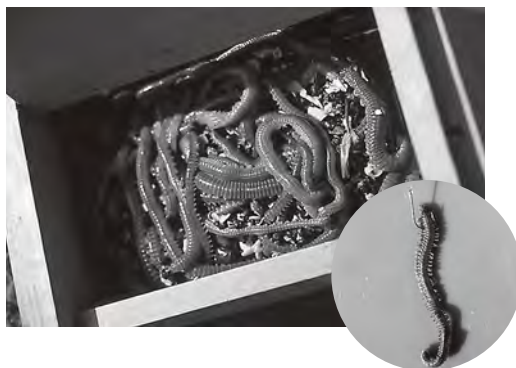


●万能に使えるエサは“アミエビ”だ

ノベ竿のウキ釣りでは、必要不可欠なエサがアミエビ。軟らかくて匂いもきついで、とにかく魚の反応が抜群にいいのだ。反面、エサ持ちが悪いので、エサはマメに付け替えることが大切。一日楽しむとして、ワンパック購入すれば十分だろう

●イソメ類も効果的！

いろいろなイソメ類の中でも、とくに動きのいいアオイソメがオススメだ。ハリにはチョン掛けにして、できるだけ活きを損なわないようにしたい。タランは3～5cmほど。ただし、魚の活性が高いときはイソメを一匹掛けすると、口の小さいアジなどでも一気に丸呑みしてくるので、逆に明確なアタリが出やすい。なお、ハリにカエシのないスレバリを使っている場合、たまにエサが外れることがあるので、マメにエサの状態をチェックしよう



●“水コマセ”を作ろう！

コマセバケツに海水を満たし、そこに冷凍コマセを投入する。徐々に溶けてきたら、その上澄みを少しずつ撒いていくのが正しい使い方だ。海水がなくなったら、どんどん補充していこう！

知っ得アドバイス

普通のアミエビで釣れないときは、解凍した冷凍アミコマセのなかにある極小のアミエビを使ってみよう。これで入れ食いが始まるのが結構多いのだ



ノベ竿で楽しめる場所はココだ！

波が静かで、足場の低い堤防が理想。適度な潮の「濁り」も必須条件なのだ

私が中学生のとき、千葉県の勝浦漁港で生まれて初めて30cmオーバーのメジナを釣ったのだが、これがノベ竿（しかもグラス製だ！）での釣果だった。このときは堤防の足場が高く取り込みはかなり難儀したが、リールの付かないノベ竿ではラインの出し入れができないので、理想をいえば足場から海面までの距離が1〜1.5mほど、足元の水深が2〜5mぐらいの防波堤や岸壁などが釣りやすい。

そして、ノベ竿で釣るときの必須条件ともいえるのが、「適度に潮が濁っている」こと。ノベ竿では仕掛けを操作できる範囲が足元周辺に限られているので、潮があまりにも澄み過ぎてしまうと、魚が警戒して釣りにくくなるのだ。逆に、潮に濁りがあれば、足元まで魚の群れが入ってくるので大釣りのチャンスとなる。ただし、大雨後に川から大量の泥濁りが入った状態はNG。あくまでも、適度な「ササ濁り」が理想なのである。

また、メジナ狙いの場合は、波やうねりによって海面が泡立った状態（サラシと呼ぶ）もいいのだが、こんなとき

は低い堤防では足元を波が洗うので危険。やっぱり、濁りの入っているエリアを探すべきだろう。

波静かな「小磯」も、のんびり気分で楽しめる

防波堤以外に目を向けてみると、内湾に面した波静かな「小磯」もいい釣り場になる。小磯まわりには魚の隠れ家になる海藻が繁茂し、澄み潮のときでも足元に魚の群れが見えたりするのだ。とくに、ウミタナゴなどはこういったポイントを好むので、軽快なタックルで探り釣りをするのも楽しい。ひとしきり釣ったら、風光明媚な風景をながめつつ、のんびりお弁当を広げるのもいいだろう。

ただし、小磯というのは足場が低いことが多く（だからノベ竿で楽しめるのだが）、風やうねりが強い日には、波が足場を乗り越えて危険だ。どんな場合でも、滑らない靴（スパイクブーツなど）とライフジャケット（救命胴衣）は必着だが、状況によっては危険な場所で竿を出さない決断も必要だろう。

ポイント

波静かな堤防と小磯が狙い目



●波が静かで足場が低い防波堤がオススメ！

ノベ竿の射程範囲は5〜6mほど。したがって、堤防は足場が低いほうが釣りやすくなる。海底はフラットな砂地よりも、変化に富んだ岩盤が入っていたり、海藻が繁茂しているポイントが理想だ。さらに、足元から適度に潮が流れ、潮がササ濁り状態になっていれば最高。これだけの要因がそろえば、もう、釣れたも同然なのだ

防波堤や港内の岸壁が足場もよくて釣りやすい。穴場は内湾の「小磯」だ！



●港内岸壁も手軽に楽しめる
波が静かな場所といえば、湾港の岸壁だ。釣り座まで車を横付けできる場所が多いので（禁止の場所もある）、ファミリーで楽しむにも最高だろう



●澄み潮なら内湾の小磯が狙い目！

ノベ竿釣りのフィールドとしては、内湾の波静かな小磯も最高の狙い目になる。磯まわりの魚たちは活性も高いので、潮が澄んでいても爆釣できることが少なくないのだ

知っ得アドバイス

意外に思うかも知れないが、港内にある水深数十cmほどのスロープや川の流れ込みなども、いいポイントになる。一度、チェックしてみよう！



実践！ノベ竿でのウキ釣りテクニク

コマセで魚の活性を上げてやるのが、爆釣への近道なのだ

釣り場に到着したら釣り座をセットし、続いて水コマセを作る。そして、コマセが溶ける間に、ノベ竿に仕掛けをセットするのが正しいダンドリだ。

徐々にコマセが溶けてきたら、その上澄みを足元に少しずつ撒いていく。状況がよければ、ものの5分ほどで魚たちが寄り始め、潮が澄んだ小磯などでは、集まってきた魚が見えることも少なくない。そして、さらに魚の活性が上がってくると、海底から良型メジナが突き上げてきたりして、人間の側もボルテージが上がってくるのだ。

コマセと仕掛けを同調させるのがキモだ

準備が整ったら、いよいよ釣り開始だ。

ノベ竿の場合、仕掛けの投入は送り込みが基本。潮の流れの筋の上流側に仕掛けを投入し、流れに仕掛けとコマセを同調させながら、その動きに合わせて竿先を送って自然に流してやるのがコツだ。竿いっぱいまで仕掛けが流れたら、再度仕掛けを打ち直す。このとき、エサやハリスの

チェックも忘れずに。半分ふやけたようなエサを使っているのは、絶対にいい結果を得られない。

ウキに現れるアタリのパターンはいくつかあるが、メジナやウミタナゴの場合は、ウキが海中に十分に沈んだところで竿を立ててアワセを入れる。ようするに、遅アワセが基本になるわけだ。逆に、エサを食べるのが上手なアジの場合は、ウキのわずかな変化を見逃さずに、早アワセ気味にしてやるというだろう。

アワセが決まって魚がうまくハリ掛かりしたら、落ち着いて竿を立ててやる。これで竿の弾力が最大限に活かされ、魚はゴムヒモを引っ張っているかのように疲労して、じきに浮いてくるというわけだ。逆に、竿を寝かせたままでいると、ライン一本だけで魚と綱引きをすることになるので、アツという間にラインを切られてしまう。

魚が水面まで見えたらタイミンよく引き抜くか、それができないような大物なら、迷わず玉網ですくうようにしよう。

超基本

釣り開始までのダンドリ



●ポイントに到着したら釣り座を整えよう！

ポイントに着いたら、まずは、釣り座を整えよう。クーラーボックスをイスにして座り、正面にはコマセバケツ、その隣に水くみバケツを置く。手の届くところにエサ箱と手拭きタオル、玉網を並べ、ロープ類はきちんと整頓しておこう。釣り座が乱雑だと、魚がヒットしたときにロープを脚に引っかけたりして思わぬトラブルを起こしかねないのだ

正しいダンドリと
マメなコマセワークが
快釣を約束してくれるぞ！

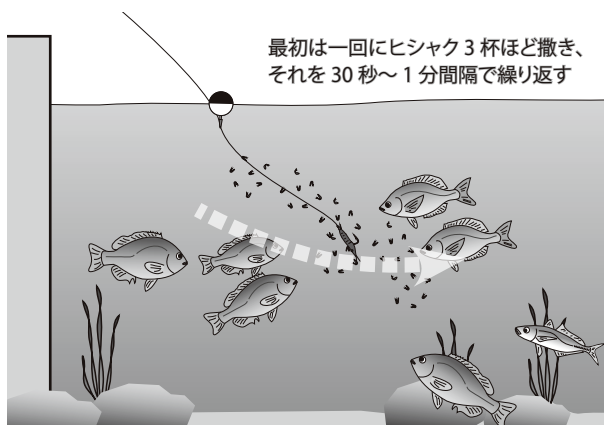
●竿に仕掛けをセットする

竿に仕掛けをセットするときは、穂先を少しだけ出してリリアンにチチワ結びで装着する。仕掛け巻きを回転させながら竿を伸ばせばセット完了だ

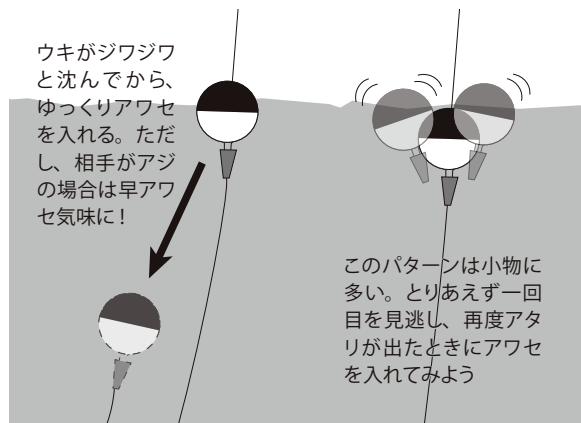


●水コマセを足元から効かせていこう！

ノベ竿の釣りでは、魚の群れを足元に寄せてから釣ると効率がいい。コマセワークの基本は、少しずつ一定の間隔で撒いていくこと。また、潮の流れがある場合は、その上流側から効かせてやることも大切だ。固形状のコマセと違って、水コマセは潮への乗りが抜群によく、いち早く周囲の魚たちに到達する利点がある。手際よく仕掛けを調べて、さっそく釣りを開始しよう！



最初は一回にヒシャク3杯ほど撒き、それを30秒～1分間隔で繰り返す



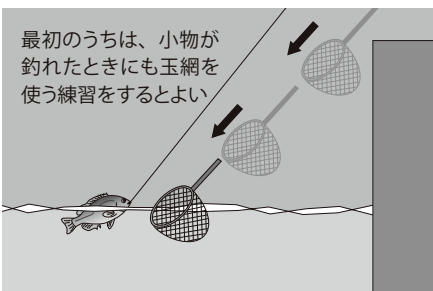
●アタリのパターンとアワセのタイミング

ウキに出るアタリで多いのは、ジワジワと海面下にウキが沈んでいくパターン。メジナやウミタナゴ、メバルなどのアタリに多く、この場合は10～20cmほどウキが沈むまで待つ、ゆっくり竿を立ててアワセを入れればよい。違うパターンとしては、ウキがピョコピョコと上下したり、ほんの少しだけ沈むようなアタリ。これは、アジやサヨリなどのアタリに多い。アワセは軽く手首のスナップを効かせるように軽く竿を立てるのがコツだ

水コマセを少しずつ効かせ、エサを同調させるのがキモ。アワセはあわてずに！

●ノベ竿で魚とやりとりするコツ

アワセが決まって魚がハリ掛かりしたら、落ちて竿を立てよう。写真のように、竿がきれいな弧を描いているとき、竿は最大のポテンシャルを発揮してくれるのだ。冒頭でも説明したように、かなりの大物でも竿を立てていれば魚はじきに浮いてくる



●迷ったときには玉網を使おう！

ちょっとでも抜き上げが不安なら、迷わず玉網を使おう。柄を伸ばして海面に半分ほど網を入れ、魚を迎え入れてやるのがコツ。魚が網に入ったら、柄をたぐって取り込もう

●魚を抜き上げるときのコツ

魚が水面に見えてきたら、腕を真上に上げてタイミングよく竿を立てることで、魚を引き抜くことができる。20cmぐらいまでの魚なら、0.6号のハリスでも問題なく抜き上げ可能だ



テクニック ノベ竿のウキ釣りテクニック

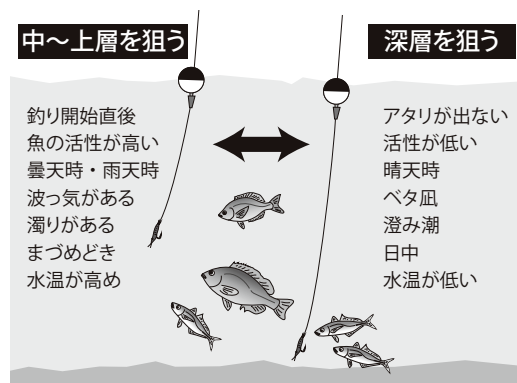


●ノベ竿での投入は“送り込み”が基本だ

まず、利き手でノベ竿のグリップを持ち（竿の上側に人差し指を添えるとコントロールしやすい）、反対の手で仕掛けのオモリの部分を持つ。ラインにテンションをかけたら、竿を投入したい方向に向ける。そして、竿先を下げた状態から、竿を振り上げると同時にオモリを放してやる。これで、仕掛けを狙った方向に投入できるのだ

●ウキ下の長さは、どうやって決めればいいのか？

とくに初めての釣り場では、ウキ下の長さをどれぐらいにするか迷ってしまうが、おおよその考え方を右に挙げておく。目安としては、とりあえず“ひとヒロ＝1.5m”のタナで開始するといいたい。ただし、釣り場の状況はつねに変化しているので、アタリが出なくなったら、マメにタナを調整してみよう。なお、サヨリに関しては表層近くを泳ぐ魚なので、ウキ下は30cmほどで狙うのがセオリーだ



●仕掛けを潮流に乗せて自然に流してやろう！

ウキ釣りに共通するテクニックの要は、“流れの筋を釣る”こと。コマセに反応した魚たちは、その流れの筋に沿って集まってくるので、ここを釣るのが鉄則になるわけだ。当然、仕掛けをその筋に流してやれば、コマセとも同調しやすくなる。ただし、流れの筋は時間の経過とともにどんどん変化してくるので、狙う筋も適宜調整していこう！

釣った魚をおいしく食べる！



【メジナの塩焼き】

皮のパリパリ感が美味！

●材料／メジナ、塩

●作り方／メジナはエラ、ワタ、ウロコを取り除いて水洗いし、水気をふき取ったあとに塩を振って、皮がパリッとするまでじっくり焼き上げる（できれば炭火で！）。大型のものは腹の内側にも塩を振り、生ハーブなどを詰めてもおいしく焼ける

●ポイント／塩が味の決め手なので、ぜひ自然塩を使おう！



【メバルのアクアパッツァ】

汁もおいしい洋風煮魚

●材料／メバル、オリーブ油、トマト、パセリ、塩・コショウ

●作り方／メバルはエラ、ワタ、ウロコを取り、塩・コショウを振る。フライパンにオリーブ油を敷き、メバルの両面を焼きつけてから水を注いで10分ほど煮て、さらにトマトを入れて火を通す。味を整え、パセリを振る

●ポイント／アサリがあれば加えると、さらに濃厚なスープに！



【サヨリの唐揚げ】

酒の肴に、子供のおやつに

●材料／サヨリ、塩、片栗粉

●作り方／サヨリはワタを取り除き、水洗いする。あまり小さなものはワタやエラもそのままでもOK。水気をふき取って塩を振り、しばらく置いてから片栗粉を振って、油で揚げる

●ポイント／この料理には小型の「エンピツサヨリ」が向いている。頭や骨も食べられるので、カルシウム補給にもGood！